



耐震性貯水槽で 給水地点の分散配置を

真野 和久議員

耐震性貯水槽の設置は計画していない

企画政策部長



▲弥富市の耐震性貯水槽

問 災害時の市民への給水支援は、どのようなものがあり、具体的にどのように行われるのか。

答 八開・佐織地区の21カ所の指定避難所のうち、県営水道管路に付随する応援給水支援設備が近傍にある佐織公民館、佐織中学校、佐織総合福祉センター、佐織体育館、佐織総合運動場、八開支所及び八開中学校において、各給水ポイントから消火栓用ホース

で延長し、避難所敷地内に給水栓を設置し、応急給水活動を行う。

問 給水ポイントになっているのは、佐織中学校の辺り、八開中・八開支所の辺りの2カ所に集中している。給水ポイントの増設、分散・再配置の考えは。

答 増設に関しては、避難所等の指定、設置がされた場合に限りであり、配置の分散は不可能。

問 弥富市、津島市では、耐震性貯水槽を分散配置している。日常的にはタンクの中で水道水を循環させておいて、大規模地震で水道が使えなくなった場合に、給水基地として利用できるものだ。本市でもこうした対策を取れないのか。

答 飲料水として500mlペットボトル17万880本を避難所等施設に備蓄しており、飲料水を兼用する耐震性貯水槽については計画していない。

ない。決して十分ではない。また、県水が震災で機能しなければ、給水ポイントは利用できない。給水車1台だけで地域を回るのは大変だ。やはり耐震貯水槽は必要ではないか。

答 飲料水は、目標を上回る量を備蓄していることから、まずは避難所等へ必要とする量を配っていく。また、各家庭での備蓄を引き続き啓発するとともに、地域での備蓄を進めていく。

まずは家庭、地域、行政がそれぞれ備蓄すること、発災後数日間の初動の時期を乗り切れることが重要だと考える。

問 500mlペットボトル17万880本は、1日ひとり2ℓ消費で4本使うとして大体4万

2720人分、本市は人口6万772人でとても足りない。

想定避難者のうち備蓄をしていない人5400人分というが、家が倒壊すれば、備蓄は使えず、避難所に行かなきゃなら

その他の質問

●学校老朽化等準備委員会の方